

れきみん となん歴民だより

vol.81

令和7年6月30日発行

盛岡市都南歴史民俗資料館

■お気軽にとなん歴民へお越しください

◆利用案内

【場所】盛岡市湯沢 1-1-38

※ 東北自動車道盛岡南 IC から車で 10 分

※ 「都南つどいの森」の案内板が目印です

【休館日】毎週月曜日

(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日に休館)

【時間】午前9時から午後4時まで

【入館料】無料



◆みどころ



手代森遺跡出土の
遮光器土偶[複製]が人気です
重要文化財に指定されています



大萱生鉱山関連資料などを通して
地域の歴史を知ることができます

昔の
くらしの道具
がたくさん！
種類の豊富さ
が自慢です



■もっこ 展示資料紹介～はたらく道具～

「はたらく道具」をテーマに常設展示の一部を展示替えしました。その中から「もっこ」をご紹介します。
もっこ（畚）は、縄や蔓などを粗い網目状に編んだもので、野菜や砂利、堆肥などを運搬する道具です。
左のもっこは、天秤棒の両端に吊るし、1人が肩に担ぎます。または、天秤棒の中央にひとつ吊るし、2人で両端を担ぐこともあります。

中央のもっこは、「手提げもっこ」といいます。両端に多数の輪を作り編んでおり、2本の棒を通して担架のように2人が両端を持って運搬します。

右のもっこは2本の棒の間に袋状の網を取り付けたものです。これは、馬の背に乘せ、荷を左右に振り分けて運搬します。袋の底は開閉できるようになっています。

このように、同じ「もっこ」といっても担ぎ方や誰が運ぶかによって様々な形があります。



企画展予告 令和7年8月9日（土）～11月16日（日）に「収蔵書画展」を開催する予定です。

湯沢に温泉が湧き、湯治客で賑わっていた頃のことです。湯治場には巫女がおり、巫女には息子がおりました。

あるとき、湯治客のひとりの金子がなくなっていました。皆は、日頃から素行が悪いその息子に疑いの目を向けました。巫女は、温泉があったばかりに自分の息子に疑いがかかったと怨み、毎晩湯を汲み取り、山を越え、繫に運ぶようになりました。そのため繫には温泉が湧くようになり、湯沢の温泉は枯れてしまいました。

巫女は臨終のときも、息子に濡れ衣を着せた人々に向けて呪いの言葉を唱えながら事切れました。すると、たちまち巫女は、片目の雀となり飛び立っていきました。それからというもの、毎年秋になると片目の雀の大群が作物をあらすようになりました。祟りをなだめるため、村人達は旅の山伏の勧めで神社を造り祀りました。それが現在もある雀神社だそうです。

出典：都南村歴史民俗資料館『都南の民話』1985年
参考：雀神社氏子総代編集委員会『雀神社物語（上）』2010年

ゆかりの史跡 まえばやしすずめじんじゃ
前林雀神社

創建は不明だが、享保3年（1718）在銘の懸仏が残されている（当館で展示中）。祭神は少名彦命、宇迦御魂命。例祭9月6日。



盛岡市湯沢2地割37-5
岩手県交通バス停「早稲屋敷」下車
徒歩9分

== 見て さわって 動かして 深まる学習 ==

～昔のくらしを知る 盛岡市都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品～

★令和7年度 第1回 「馬具」

岩手は古くから馬産地として良質な馬を生産してきました。人々は馬を大切にし、人と馬が一緒に生活する「曲り家」を生み出し、馬に感謝する「チャグチャグ馬コ」などの行事が引き継がれています。

当館の建つ都南地域でも、馬は人々のくらしを支え、山仕事や農耕など様々な労働力になってきました。都南村誌によると昭和25年（1950）の旧都南村の馬の飼育数は1,288頭を数えています。また湯沢に住む古老の話によると、戦後、当館が建つつどいの森一带は木材の切り出し場であり、木材を馬車で製材所に運び出していたそうです。そのため当館には、様々な馬具が収蔵展示されています。

今では、馬が担った仕事は機械にとってかわり、普段のくらしの中で馬に接することはなくなりましたが、ぜひ馬具に触れて当時の「馬と共にあったくらし」を想像してみてください。

参考文献：遠野市立博物館『馬とくらし』平成2年



荷付け用の鞍

（当館には乗馬用の鞍も含め
全部で7具収蔵している）



たてご

馬の頭部から顔面
に装着する。革製



馬ぐつ

農耕や運搬時の蹄の保護
のために履かせる。藁製



くずもっこ（口もっこ）

馬の口にかぶせ、草などを
食べたり、人を噛んだりし
ないようにした。藁製